

自己評価報告書

平成 28 年度版

基準日 2017年（平成29年）2月28日

学校法人東京町田学園
町田・デザイン専門学校

1 学校の理念、教育目標

| 教育理念 | 教育目標 |
|---|---|
| <p>町田・デザイン専門学校 基本理念</p> <p><建学の精神> 一、時代に適応する確かな専門技術の基礎を教育する</p> <p>一、個性と創造性を発揮し生涯を通して人間性豊かに生きる人材を育成する</p> <p>一、育成された技能者の活動を通して地域の産業と文化の発展に寄与する。</p> <p><校 訓> 感動・奮起・向上</p> <p><教育理念> デザインを通じて社会に貢献する人材を育成する。</p> | <p>教育目標</p> <p>町田・デザイン専門学校は、建学の精神に則り、デザイン等に関する専門技術教育を通じて、個性を生かすキャリア形成支援を行い、変化する社会に柔軟に適応できる実践力と人間性に富んだ人材の育成を目指す。</p> |

2 本年度の重点目標と達成計画

| 平成28年度重点目標 | 達成計画・取組方法 |
|--|--|
| <p><キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビクネームプロジェクトの実践、戦略的インターンシップ、難就活動者の対応、就職ワーク充実。 <p><入試広報室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先手の募集活動、STEP UP 体験スクール充実、AO 制度再構築、指定校推薦対策、授業料免除策拡大、ガイダンス強化、口コミ対策、同窓会・後援会連携。 <p><校務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費納入率 100%、奨学生管理強化、キャンパスプラン確立、効率的な業務推進、急患体制構築、心地よい窓口業務。教育交流拡充、学校評価拡充、地域連携。給付型奨学金の創設。 <p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育レベルの向上、企業連携による実学実習の充実、資格取得率向上、入学者数向上。 <p><ビジュアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育改革/入学対策/就職対策/ドロップアウト対策/コンペ対策/実学教育 <p><まんが・コミック></p> <p>メジャーコンペでの受賞率の向上/専門就職口の拡大/作品集発行/出張移動編集部、アシスタント斡旋の拡大/次年に導入する、クリップスタジオの授業準備</p> <p><雑貨・プロダクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの見直し、教育環境整備、CS 追求、実学教育の充実、入学者確保対策、魅力ある講師陣の確保、入学数確保。 | <p><キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続したグローバルアップセミナー開催、大手企業にチャレンジ/就職活動時期早期化による戦略的対応/保護者説明会の充実・強化/就職活動初動強化。 <p><入試広報室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の早期告知/STEP UP 体験スクールでリーピートを図る/AO 内容変更/指定校推薦内容変更/授業料免除方法再検討/ガイダンス種まき強化/在校生同伴高校訪問/在校生情報発信/リスティング・リマーケティング広告/SNSの強化。 <p><校務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・納付方法の提案等丁寧な保護者対応/学生支援機構の奨学生への細やかな指導/教務ワトの汎用性検討/役割分担再構築/急患等のマニュアルづくり/学生に寄り添う窓口業務構築/高校との教育交流拡充をはかる/授業評価実施による学生満足度の向上/地域大学等との交流。財団法人台湾佛教慈濟慈善事業基金会の給付型奨学金の創設に向け、準備。 <p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築デザイン科=建築士、建築技術者、インテリアデザイン科=インテリアレイ、ショップ系専攻に応じたカリキュラム準備/3社を代表に実学実習を通じて実社会とのパイプづくり/建築士・インテリアコーディネーター講座導入、技能検定検討/以上の充実により入学者を確保。 <p><ビジュアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎クリエイティブ共通課程を核とした新カリキュラムの安定的運用/カリキュラム効果測定実施/就職個別指導早期化/ポートフォリオ指導強化/企業との連携による実学教育/学科ブログ運用による情報発信強化/学生個別面談対応強化 <p><まんが・コミック></p> <p>投稿活動指導強化/キャリアセンターとの連携強化/レベルの高い作品制作の発信/外部連携/施設管理……等</p> <p><雑貨・プロダクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導体制強化/3D プリンター産学協働検討/有名企業インターンシップ対策/必須・選択・合同等を踏まえたプログラム再構築/工房室の環境整備/授業外指導・学生フォローアップ強化/校外実学の充実/対高校資料作成/体験実習の研究。 |

| 平成28年度重点目標 | 達成計画・取組方法 |
|---|---|
| <p><ファッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科運営対策、コンペティション対策、資格対策、社会福祉プロジェクト、地域連携、就職対策、別科・専科模索。 <p>《通信教育室》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客の仕組みづくり、教育内容充実、出口を見据えた通信教育 <p><法人総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の遂行、施設改善・危機管理対策の推進 <p><法人企画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業構造の抜本的見直し、予算制度の見直し、教育改革・渉外改革・経営改革、組織の大改革及びスリム化、人事の見直し、職員教育・育成・意識改革、テニール事業、後援会設置、同窓会拡充、寄付金確保 | <p><ファッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレッジショップ企画／まちコレ企画／細やかな面談対応等のクラス運営／実習における製作アイテム検討／ネット販売企画／新規コンペの開拓／資格取得対策構築／ユニバーサルアイテムの販売企画／地域イベント参加による広報／キャリアアドバイザー等就職指導計画見直し。 <p>《通信教育室》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科定員満了のため広報・イベント活動構築／HPを通じた集客／企業営業による集客／入学説明会問い合わせ対応等集客活動構築／eラーニング教材の充実／スクーリング・サポート体制の整備／就職支援・転職支援の体制づくり <p><法人総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務体質・職場環境の改善、収益の確保、工房室の整備、テニール事業計画、1号館リニューアル、学生生活環境整備と老朽化設備の改善修理、法令点検、報告事項の遂行と各設備の清掃・点検の充実、大規模災害に対する備蓄品の確保及び対策 <p><法人企画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益構造の強化:収益事業構造のバランス再構築／収入に応じた段階的な予算執行／有識者を交えた3大改革実施／人員削減・課業洗い直し業務効率化／適材適所・育成強化・研修会強化／企業+学生コラボの収益事業検討／後援会・同窓会連携強化／寄付金募集強化。 |

3 評価項目別取組状況

基準 1 教育理念・目的・育人人材像

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|--|
| <p>平成 21 年度より「教育の手法について」を発刊し、教育方針、教育方法について、そして各学科の教育理念としてそれまでを踏まえた上で示されている。その後、平成 24 年度には、基本理念として、教育目標、基本方針が「第一次新成長構想」にて示され、教育課程編成方針においてもあらためて示された。そして平成 25 年度には新たに「町田・デザイン専門学校 基本理念」として「教育目標・基本方針」とともに示され、それらを踏まえて教育課程編成方針がなされている。</p> <p>それらは、適宜、募集要項、学校ホームページ、各会議資料、研修資料、新成長構想等で明記しており、教職員、外部に対しても告知している。特に学内では、会議・朝礼において各人が唱和するなど、教職員に周知徹底されている。</p> <p>教育理念・目的・育人人材像については、ここ数年で適切に整理がなされ、定められていると言える。</p> <p>しかし、その実効性は、各講師、教職員によっては温度差が感じられ、各個人の努力によって進められているところが大きい。ガバナンスといった観点で課題が残っている。</p> <p>また教育プログラムとしては、それらが反映されたプログラムがなされるべきであり、時代に適応して更新されるべきである。その体制が、まだまだ不十分であり、現状に満足することなく、より開発意識を高め、涵養することが必要である。</p> <p>その他、「新成長構想」は、課題や戦略、基本施策、重点目標が掲げられているが、理想と現実との乖離がみられ、課題が残る。また近年の業界動向から中長期計画の再構築が検討されている。</p> <p>通信教育の通学授業の e ラーニングを活用、通常履修科目以上に履修することが可能となった。次年度以降更なる研究重ね、有用的な活用を図りたい・学生募集については前年度同様程度であり大学全入時代を明確に映し出している。</p> | <p>教育理念・目的・育人人材像については、ここ数年で適切に整理がなされ、定められていると言える。しかしながら実効性という観点では課題が残っており、ガバナンス強化が必要だと考えている。その方策として、より明確な視覚化を中心としたダイアグラム表現やより深く理解されるためのプログラムを構築し、実施することが考えられ、今までの仕組み自体の見直しが必要と思われる。</p> <p>教育プログラムにおいては、入学する学生のレベル格差も問題となり、それらの対応について対処療法的な対応が主となり、システムティックな対応が難しい状況である。そういったきめ細かい育成のノウハウが蓄積されていない印象も強く、教育部門の共有財産としてのコアコンピタンスの蓄積を期待したいところでもあるが、やはり、教育理念を主としたプログラム化とその周辺のサブプログラムとの適切な構造的構築が必要である。</p> <p>そして「新成長構想」の課題や戦略、基本施策、重点目標については、各項目において理想と現実を埋める段階的スキームが必要である。そして再構築の際にはその迅速な対応が求められるのは言うまでも無い。</p> <p>ガバナンス強化、プログラムの構造的構築、そして段階的スキームにおいて、形だけの PDCA ではなく、実質的な PDCA の運営とともにその進捗管理の為の評価システムが必要である。</p> <p>3 8 専攻を軸に基礎デザインから学ぶことができ、卒業時には専攻に分かれた専門性を追求した学習をステップアップしながら身につけることができるカリキュラム作りを行う。</p> <p>専門学校の位置づけが大きく変化しようとしている現在、これまで同様の教育スタイルでは難しい。E ラーニングや遠隔教育を導入し非対面教育の充実を図り、学びの自由、柔軟性を図ることが必須であり、その対応力が求められていく。企業とのインターンシップを超えたデュアルシステムを構築し、2 年間で社会に出ることができるメリットを生かした展開を図っていく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・総合デザイン学校を主な特徴の一つとしている本学は、その教育内容において「デザイン分野」には括れない教育分野が存在している。各学科の独自性も高く、学校としてのガバナンスを考えた際に、非常に難しい状況をつくっていると考えている。しかし、学校としての統一した理念のもとに、各学科の教育理念とする図式が組み立てられつつある。 ・社会・企業と連携したデュアルシステムによる実学教育を行う準備をする。 ・地域に貢献しその活動から身に着ける学習効果の高い手法としてさがまちコンソーシアムや町田新産業創造センターとの連携教育を行っている。 |

基準 2 学校運営

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|---|
| <p>本学校法人はm d cという単一事業体の経営なので、経営方針＝運営方針そのものであり、年度毎の経営方針、事業計画書等の基盤としてその中に反映されている。</p> <p>年度の経営方針については、3月に全体会で発表周知し、各科事業計画については、分科会で発表周知している。それに基づき校務運営会議で上半期・下半期でのP D C Aを部門ごとに検証し、状況の変化に応じて修正するというスタイルが確立されている。尚、中長期計画「第一次新成長構想」、年度経営方針、部門事業計画が互いに適合、連動することが必要であり、なおかつ、それぞれが実行計画等の詳細を踏まえたものである必要があるが、まだ改善の余地があるといわざるを得ない。また近年の業界動向から中長期計画の再構築が検討されている。</p> <p>理事会、評議員会は、寄附行為に基づき適切に開催し、必要な審議を行い、議事録を作成している。また、組織運営や意思決定は、目的や目標達成のために、規程に基づき効率的に実行している。さらに、人材確保は、設置基準・規程等の定めに沿って公募・紹介などにより必要な人材を確保しているが、賃金制度の見直し、人事考課による処遇制度の導入を検討し、職員のモチベーションアップを図ることが課題と考える。</p> <p>意思決定システムは整備されており、規則・規定等で明確になっている。また、意思決定までの合意形成も諸会議や稟議システムにて合理的に進められているが、最終的な意思決定に時間を費やし、事業推進に影響を及ぼしている部分もある。</p> | <p>中長期計画や年度経営方針は、その根拠を踏まえた丁寧な方針説明とともに教職員の理解度、浸透度についての検証が必要である。</p> <p>また、意思決定の迅速化は推進の決裁権限者の素早い判断力と強いリーダーシップの涵養が望まれる。</p> <p>学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムは効率的に活用しているが、メンテナンス及びセキュリティ管理が一元化できるよう改善している。</p> <p>人事異動による職務のマンネリ化防止及びモチベーションアップを図る上で、年功型の給与体系から脱却し、成果型への移行の検討が急がれる。</p> | <p>学生情報は随時最新のデータを蓄積している。昨年度より新システムを導入したが、未だ不慣れな面が否めない。また、一部現状システムと合わない部分もあり、今後の課題である。</p> |

基準 3 教育活動

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|--|
| <p>教育部門においては、校長を中心に教育目標、基本方針、学科像、学生像が取り纏められ、第一次新成長構想にも教育部門の中長期計画が示されている。しかし近年の業界動向から中長期計画の再構築が検討されているという事実も混在する。また、教育課程編成方針において教育活動の大枠が定められ、それに基づいて本年も教育活動がしっかりと行われている。それは、校内での学習はもとより、学外での実学実習にも反映されている。</p> <p>本年も引き続き、教育部門の中長期計画は各学科において、その学科運営（教育目標・方針・育成人材像・教育到達レベル等）における単年度の重点事業計画の項目として反映されている。</p> <p>例年、授業評価、講師問題（インストラクションスキル等その他）、ピアカウンセリング教育、キャリア教育、資格取得等については自己評価の結果を当然踏まえたものとなっている。</p> <p>しかし、学科ごとに毎年改善傾向にあるにもかかわらず、進捗スピードは速いとは言えない。それぞれの学科の事情や認識の違いから、学科ごとの取り組みに温度差があり、全体を鑑みた方向付けが必要とされている。</p> <p>本年はこれらに対応するため、全授業に対して学生評価を一斉に実施し、学校全体の教育改善の方向性と足並みを揃えることに努めている。</p> <p>通信教育は、学則に定められたカリキュラムに基づき、学習が進められているが、いくつかの項目で通信制の制限により、項目通りのカリキュラムの実施が難しい科目が見受けられる。</p> | <p>全ての授業の学生評価を実施した結果、学生の理解度と授業シラバスや教授スキル等の関係など、各学科に潜在している課題を顕在化させたことは従来に比べ一歩前進である。</p> <p>今後は、その課題を教育部門全体で共有し、大きな改善への枠組みを提示し、そのうえで、学科の特性や目指す職業の専門分野における人材育成手法の違いに配慮しながら、各学科が具体的な行動に移ることができるよう校長、教頭を中心に指導していく。</p> <p>また、授業内容については、「職業実践専門課程」の要件を整備検討する過程で、関連業界の企業との連携を強化し、共にカリキュラムの構築をする中で、企業の人材ニーズに応え、最新の情報・技術を修得できるものに改編し、それを担える講師の育成、確保に努めて行く。</p> <p>さらに、当校のディプロマポリシーおよび教育レベルの一定水準の確保を実現するため、基礎学力講座や共通の基礎デザイン授業の導入をはかる。基礎デザイン学習の充実と共により専門性を高め、実社会と教育内容の差異が生じないよう、実学実習、研修を取り入れると共に、独自のプログラムで企業と産学教育を強める必要がある。</p> <p>通信教育は、担当講師との打ち合わせによるカリキュラムの改善および外部への修正・告知している。</p> | <p>総合デザイン学校の特徴として、複数の学科によるコラボレーション授業が可能であり、学外での実学実習やイベント等の企画等に活かしている。</p> <p>同時に、課外授業のオプション講座を開講し、所属学科を超えた講座の受講が可能になっている。資格試験の対策強化や就職に向けての学生の活躍する領域を拡げることに繋がっている。</p> <p>共通基礎科目の整備、および38専攻による専門性向上の整備と共に、教育内容の偏りを整理する。</p> <p>1年間の実施アンケート等からの意見を吸い上げて改善していく。</p> |

基準 4 学修成果

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|--|
| <p>就職率については、キャリアセンターと教育部の協力で、就職希望者の就職率は例年100%またはそれに近い数値で着地できている。</p> <p>また、その就職先は専門性を活かした就職がほとんどである（学生が希望するものを除く）。就職先の一覧や求人企業の資料はいつでもキャリアセンターで見ることができ、毎年の学生就職の資料として有効活用されている。</p> <p>1年次からキャリア教育を授業内に組み込みつつ実施している。そのため就職意識は非常に高いことは特筆すべきであるが、専門学校には一般教養科目を授業内に組み込むことは難しく、その部分の指導体制は薄くなっている。</p> <p>本学独自のキャリアセンターを主とした就職塾はグローバルアップセミナーを中心に成果が出している。</p> <p>また、就職希望者率は70%前後となっており、今後はその向上並びに専門分野への就職率を高める必要を感じる。</p> <p>資格取得については学科により授業目標の位置づけが異なるが、取得が就職や卒業後の活動に有効な業界・分野に関わる学科は資格取得目標を設定し、積極的に取得するよう学生を奨励している。また、受験率の向上を目指し、学生に受験意欲を喚起するため、合格者に一部受験費用の補助をおこない、同時にオプション講座等での合格対策講座の開講など合格率向上の支援を充実させ、合格意欲の向上をはかっている。</p> <p>卒業生のフォローについては、キャリアセンターを中心に定期的に就職先を訪問し、その仕事ぶりや評価等を把握することに努めている。また、教育部門では、専任教員が授業の合間にOB企業を訪問し、卒業生の状況を確認するとともに、その意見やニーズを授業内容にフィードバックすることに努めている。</p> <p>尚、デビューを目指す学科では、卒業後の投稿活動やデビュー・入賞情報などを本人より報告するよう在学中から指導し、コミュニケーションの構築をはかっている。</p> | <p>キャリアセンターを主とした就職塾のより一層の充実が期待される。特に専門学校生のハンデとして、基礎学力や一般教養の少なさが課題であるが、キャリア教育カリキュラムと連動した課外授業の開発が急務である。</p> <p>就職希望者が100%にならないことは漫画家をはじめとする「デビュー」を主とした学科があるためであるが、一方で、その他の学科でも、就職希望者が学科によってまちまちなどもあり、今後社会に出るにあたり、就職することの大切さ、意味を伝えていく必要がある。そのためには、OB在籍企業やシンパ企業の集まりであるm d cサポーターズクラブの協力が必要と思われる。</p> <p>資格取得率の向上には、抜本的な受験対策に取り組む必要がある。対策講座についても、少人数でも選択科目を実施できる工夫やオプション講座の最低開催人数の撤廃など、学生一人ひとりのニーズに対応したきめ細かな支援が望まれる。</p> <p>卒業生の情報フォローについては、学校からのワンウェイのアプローチだけではなく、卒業生からのアプローチも必要である。それには同窓会組織を強化し、専用ホームページを設けることで、卒業生の活動情報発信の場を提供することや個展・グループ展、その他事業支援などを通じ、卒業生からの学校への回流を誘導する策などが考えられる。今後双方向の交流が活発になる中で、多くの情報が得られる仕組み作りが求められる。</p> <p>また、「職業実践専門課程」の要件整備の中で、学校関係者としての学校評価や提案・提言などの場を積極的に卒業生に提供して行くことが、結果的に帰属意識の喚起に繋がるのではと考える。</p> | <p>キャリアセンター内定一覧。 指導記録。 合同企業説明会、企業交流会、キャリアアドバイザー。</p> |

基準 5 学生支援

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|---|
| <p>各学科において「面倒見の良さ」を標榜した取り組みをしており、教職員の学生に対する支援志向は大変強いものがある。入学前の教育交流から卒業後の同窓会等を通じた、各ステージでの「学生」への支援を今後進めて行く予定である。</p> <p>就職支援については、キャリアセンターという就職指導専門の部署を設置し、学生の就職活動の支援体制を敷いている。また、同センターで就職指導の授業を担当し、卒業年次前年の後期より就職指導、企業説明会、就職ウィークでの面接体験等を指導している。</p> <p>また、各学科では職業理解を深める為にも、実学教育を推進し、その際にはOB在籍企業や本校のシンパ企業の集まりである、m d c サポーターズクラブとの連携を図り内容の充実も図っている。さらに、学科とキャリアセンターとの連携を図り、カリキュラムに就職関連授業を導入し、担任とキャリア担当の2人体制で履歴書の書き方、面接指導を行うなど学生一人ひとりに手厚い就職指導を行っている。</p> <p>学生の退学者防止のため、経済的なサポートとして、延納・分納制度および日本学生支援機構の奨学金の説明を随時実施している。</p> <p>心理面、学習面での指導としては、保健室、カウンセリングルームを整備し、予約制ではあるがカウンセリングを受けられる時間とスペースを確保するなど、学生相談の充実に取り組んでいる。</p> <p>同窓会は組織されているが、個々の卒業生の活動状況のすべては把握し切れていない。再就職の相談に関しては、その都度、適切にアドバイスをおこない、再就職先企業の斡旋などを実施している。</p> <p>通信教育 通信制という特質のため、eラーニング、個別メール、電話、スクーリング時の相談という形で、学生支援を行っている。スクーリング時の欠席フォロー、課題未提出者のフォロー等も、個々に応じて行っている。</p> <p>また、遠方からのスクーリング出席者に対する製図版の貸出等でスクーリング出席の負担軽減を図っている。</p> | <p>就職支援については専門性を活かせる就職先の開拓や一般常識など専門学校としても、就職活動に有効なカリキュラムを更に充実させる必要がある。</p> <p>ピアカウンセリング教育も有効活用し、より学生個々の就職力を強化充実させる。</p> <p>学生相談の役割が大きくなっているが、学生の健康管理体制に関して、常駐の養護教諭は確保したが、今後、常駐のカウンセラー配置の検討が必要である。今後は、校務課と保健室養護教諭およびカウンセラーと担任との連携体制を充実させることで、学生の健康支援の質をさらに高めて行きたい。</p> <p>留学生の指導、管理は校務課が行っており、生活面、経済面の相談等を親身になって相談に乗る体制はできているので、現在留学生の数が少ないため、現時点では問題ないが、増加した場合は再考の余地がある。</p> <p>経済的支援の必要な家庭が年々増加傾向にある中で、公的奨学金未返還者増の問題も浮上している。学生だけではなく保護者も対象にした説明会を実施しているが、今後は本学独自の奨学金制度の検討も必要である。</p> <p>卒業生の再教育については未だ手がつけられていないが、社会人の編入制度や今後の単位制の導入など、受け入れ態勢を整えて行く。</p> <p>通信教育 経済的な面で通信制入学を考えている、高校生に対しての援助方法の構築。</p> | <p>入学前から卒業後までのケアを推進する体制構築を進めている。</p> <p>入学年度からの就職関連授業の導入およびキャリアセンターと教育部の綿密な連携等が特徴である。</p> <p>平成29年度4月より、財団法人台湾佛教慈濟慈善事業基金会より、毎月3万から5万円の給付型の奨学金を運用開始。</p> <p>通信教育 入学当初の教材の貸出等。</p> |

基準 6 教育環境

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|--|--------------------|
| <p>施設・設備は設置基準、関係法令に適合するよう調整しているが、図書室、PC教室・工房室の整備は充分とはいえない。とりわけ、図書室は新刊の専門書が少なく、補充が必要である。また施設のバリアフリー化は対応が遅れていた所の改善を進めている。学生の休憩所は専用スペースの確保が難しく、対応が不十分である。衛生管理は担当委員会を設置して啓蒙活動を徹底している。</p> <p>学外実習は専門学校として実践教育を具現化するためにも、意義や教育課程での位置づけを明確にしている。各学科とも企業や地域等で取り組んでおり、効果も高い。一部は複数の学科のコラボレーションで取り組んでいるものもあり、指導体制も委員会等で連絡や協議を重ねているが、学科単位のものには除き、その性質上、内容が多岐にわたっており、マニュアル化は進んでいないのが現状。今後内容をさらに検討した上で、より教育効果のあるものを取り入れていくべきであろう。また、インターンシップ（企業研修）に関してはキャリアセンターを介して積極的に取り組んでいる。インターンシップ先企業の開拓から、実施に向けての打合せ、実施後の評価に至るまでキャリアセンターのスタッフが対応している。</p> <p>学校防災に関しては、毎年防災訓練を全学的に実施し、学生、教職員の参加者は90%を超え、避難経路・場所および誘導の方法を確認している。万が一災害が起きた場合に備え、再度避難経路・場所の確認と誘導の方法の検討が必要である。校内の安全管理については、学科によって工作機械や工具、薬品、電気製品を取り扱う機会が多いため、それぞれの専門分野に詳しい講師を中心に取り扱いを指導し、とりわけ危険度の高い工作機械の操作については校内資格試験をとることを課し、安全性の担保を維持している。</p> <p>通信教育eラーニングによる授業及びスクリーニングによる面接授業により教育内容を実施。</p> | <p>既存の図書室についてはスペースの拡張をし、図書の充実をはかる。また、貸出しシステムの構築が長年の懸案になっているので、対応が急がれる。</p> <p>学外実習は、職業実践専門課程の要件整備と合わせて、実習授業内容の企画段階から企業との連携をはかり、授業目的と企業ニーズの整合をはかることで、双方のメリットを確認し、継続的な取り組みとしていく。</p> <p>また、学外実習やインターンシップについては、年間を通じて計画的に実行するとともに、学校の窓口を一本化し、単位認定や成績についての最低限の規定をもうけることが必要である。</p> <p>学校は、学生及び教職員の安全第一と認識しており、毎年実施している防災訓練だけでは不十分である。その為、危機管理マニュアルを見直し、様々な面からの防災体制を整え、事前の安全対策や災害時に適切に対応できるよう構築する。また、今後は消防署等の指導による訓練を実施したい。</p> | <p>特になし</p> |

基準 7 学生の募集と受入れ

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|--------------------------|
| <p>募集に関して、限られた予算であらゆる手段と対策を講じているが少子化の一途を辿っている中、入学者の確保は大変困難を極め、厳しい状況である。そのため目標数値・予測数値などに誤差が生じ、整合性を図ることが困難である。</p> <p>主な募集活動としては、1年を通じて学校訪問、校内ガイダンス、会場ガイダンスの参加やSTEP UP 体験スクール・オープンキャンパスの開催。</p> <p>また体験スクール以外に個別説明会の開催増や平日体験スクール開催を増やして、多くの方が参加しやすい環境に努めた。参加者や体験参加者に対しては、参加者にとって何がベストなのかを第一に、誠実に誠心・誠意を込めて親身な対応を心掛けている。こういった対応は大変重要であり、ガイダンス参加からの体験参加者の出願率は高くなっている。</p> <p>学科別の入学者数の予測数値に関しては、8学科あるため、目標数を立てることは容易だが、具体的な各学科の入学者数は広報戦略によって大きく変わってくることが予想される。</p> <p>通信教育</p> <p>通信制を開講する専門学校が神奈川1校と少ないため、現在のところは入学希望者の減少は表だって顕在化していないが、入学希望者が他校、他大学との比較を必ず行っている状況、東京都等での競合校の開講があれば、教育内容、受け入れ態勢の整備等を先んじて行っていなければ、たちまち他校に学生が流れてしまう状況にある。</p> | <p>2018年問題を前に、今後も少子化に歯止めがかからない中、募集活動の見直しは急務である。</p> <p>特に学科編成、学校案内・HP制作などが遅く、他校と同じ土俵に立てないまま新年度を迎え、募集体制が整っていないまま募集活動をスタートしていることは致命的であり、改善すべき最優先事項と言える。</p> <p>何よりも学外への早期告知と情報提供を軸に募集活動を行うことが必須。</p> <p>また、留学生の受入体制の構築や再進学者を対象とした募集活動の考案が必要である。</p> <p>年々学科によって志望者の気質やカラーが異なってきたため、今後は学校としての広報戦略だけではなく、学科別での広報戦略が必要となる。</p> <p>通信教育</p> <p>町田・デザイン専門学校独自の強みの構築と、体制の整備充実。</p> | <p>体制の整備充実のための予算の確保。</p> |

基準 8 財 務

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|--------------------|
| <p>学校運営にとって、財政基盤の安定確保は最重要課題であり、18歳人口の減少や大学全入時代の社会環境の中、学生確保が厳しい状況が続いている。</p> <p>また、大変厳しい予算編成を強いられている。財政的に大変厳しい状況なので、無駄がないか、余分な経費増に繋がっていないかなど、財政面での継続的な見直しも必要である。</p> <p>さらに、募集戦略および教育内容を含め学生確保に繋がらない原因は何か徹底的に分析、追求して、抜本的な改善に取り組む必要がある。</p> <p>適正な財務環境を整備するために、収支状況、財産目録、貸借対照表など分析を行い、主要な財務数値について把握するとともに、全国や東京都平均値等の数値を参考に分析を行っているが、結果には結びついていない。</p> <p>主な収入源として来た昼間部の学納金以外として、通信教育、附帯教育、収益事業、寄付金確保など充実し、事業構造の改革を図る。</p> | <p>主要な財務数値の全国・東京都平均値等の数値を参考に分析の結果、人件費比率を適正数値に戻すことが急務である。</p> <p>学生確保対策として募集戦略、教育内容、運営組織を含め、抜本的な改善、改革に取り組む。</p> <p>組織のスリム化を実施し、適正な教職員に是正。</p> <p>付加価値の高い業務運営によりキャッシュフロー重視の予算編成、執行の実施。</p> <p>同窓会、後援会等を通しての寄付金確保強化。</p> | <p>特になし</p> |

基準 9 法令等の遵守

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|---|---|--------------------|
| <p>関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行っており、必要な諸届等も適切に行っているため、特に問題はない。ただし、東京都の規定と照らし合わせ、一部施設等に改善を要するところがあり、指導を仰ぎながら、鋭意改修を行った。</p> <p>また、教職員および学生における法理遵守の意識についてはかなり高まってはいるが、引き続き遵法の意義と必要性を深く理解する機会を作り、さらに社会的責任と信頼を重ねて行く必要がある。とりわけセクシャルハラスメントについては、問題は教職員間で共有しており、研修会等でも意識向上や防止対策を講じているが、防止意識が定着したかどうか検証が難しいこともあり、今後も継続的な取り組みが肝要である。</p> <p>個人情報の保護については、個人情報保護法の趣旨に則り、学生をはじめ出願者や卒業生の情報を厳格に管理しているが、システムの老朽化とともに、セキュリティにやや脆弱性が見られるので、リニューアルを含め、早急な対応をおこなっている。また、教職員の情報管理についての危機意識の向上に向けても研修会等で啓発を行っており、漏洩等の事故が無くなるよう組織的に改善が図られている。</p> <p>自己点検評価については、この継続して実施しており、その結果もホームページ等で公開をしている。また、評価結果の改善策は次年度の部門事業計画に反映されており、年間を通じてPDCAを実施している。</p> | <p>施設の改修については現在計画的に進めた。今後の維持管理を計画的に行いたい。</p> <p>セクシャルハラスメントについては、引き続き研修会等での有識者の講演を通じて、防止意識の向上を進めるとともに、所管委員会等で防止マニュアルの策定が検討されている。</p> <p>個人情報の保護については、取り扱いガイドラインを作り、全教職員で共有するとともに、ネットワーク上での必要な情報保護策として、メール送信時に添付ファイルを開く際のパスワードを設定するなどの措置を徹底する。また、教職員に貸与されている業務用のノートパソコンや学生情報等が入ったUSBメモリー、SDカードなどの学外持ち出しを禁止する規定を作ることも講じる。</p> <p>自己点検評価については、職業実践専門課程の導入をにらみ、その申請要件である学校関係者評価の実施体制の整備を急ぎ、評価の実施と合わせて第三者評価までの道筋を構築することが急務である。</p> | |

基準 10 社会貢献・地域貢献

| 総括と課題 | 今後の改善方策 | 特記事項（特徴・特色・特殊な事情等） |
|--|---|--------------------------------------|
| <p>建学の精神の項目にも記載されている、技能者の活動を通じて地域の産業と文化の発展に寄与することを体現するため、積極的に地域貢献をしている。また、専門学校の特性としての実践教育を推進するため、地域や行政、企業、大学等との連携を図ることを中長期計画の中で謳っており、地域団体等への施設の開放を進め、地域への理解と協力を得るよう取り組んでいる。今年度は実践教育として一定の成果を出すことが出来た。</p> <p>また、数年前から、相模原・町田大学地域コンソーシアムへ参加し、地域市民への生涯学習の場や学生の活動の場の提供を進めている。</p> <p>近隣の高等学校等とも連携し、キャリア教育や実践教育の支援のため、講師派遣や生徒の受け入れ授業などを実施。中学校とも職場体験を通じて、生徒の体験実習をおこなっている。</p> <p>一方、国際交流については、中長期計画の中で、その実現を将来の目標としているが、学生の海外志向の高揚や組織体制の整備など、本格的な教育連携を図るには時間が必要である。</p> <p>3.1.1 東日本大震災をはじめとする、被災地復興支援は、課外活動、夏期研修中の研修においても実施され、学生の心身の成長とともに、人間力の育成につながっている。地域ボランティアとしては校舎周辺の清掃活動や、周辺店舗との協働活動を進めている。ボランティア活動を通じて、学生を思いやりのある、コミュニケーション能力の高い人材に育成することは専門学校の目的の一つである。</p> | <p>ボランティア活動の窓口が一本化されていないこともあり、今後は地域貢献委員会を中心に、取りまとめていく。</p> <p>教育的な面としての学生人間力向上とともに学校の存在意義の一つとしても重要と考えている。</p> <p>学科によりその意識の差があることは否めないが専門領域を活用した参加を検討していきたい。</p> <p>国際交流については、学生の海外志向を高揚する取り組みを講じて行く。そのうえで、教育連携校の開拓と教員交流の進捗を図り、学生交流の魁とする。</p> <p>また、留学生は本格的な募集・受け入れ活動をするには、専従部門の設置等、体制の整備・強化が前提となる。</p> | <p>ボランティア活動参加報告書。 一部実学実習報告書。</p> |

4 平成28年度重点目標達成についての自己評価

| 平成28年度重点目標 | 達成状況 | 今後の課題 |
|---|--|--|
| <p><キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビクネームプロジェクトの実践、戦略的インターシップ、難就活動者の対応、就職ワーク充実。 <p><入試広報室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先手の募集活動、オープンキャンパス廃止、STEP UP 体験スクール充実でリピートを増やす、AO 制度再構築、指定校推薦対策、授業料免除策拡大、ガイダンス強化、口コミ対策、同窓会・後援会連携。 <p><校務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費納入率 100%、奨学生管理強化、キャンパスラン確立、効率的な業務推進、急患体制構築、心地よい窓口業務。教育交流拡充、学校評価拡充、地域連携「新芽奨学金」の円滑な提携。 <p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育レベルの向上、企業連携による実学実習の充実、資格取得率向上、入学数向上。 <p><ビジュアル></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育改革、入学対策、就職対策、実学教育。 ・3年制制度の成果維持とイラストレーション科のカリキュラム調整。就職対策維持、実学実習の維持、デュアルシステムの開発と推進 <p><まんが・コミック></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンガコンペでの受賞率向上、専門就職口の向上、部活指導と広報、作品集発行、出張移動編集部、アシスタント斡旋の拡大、デジタル環境の整備。 <p><雑貨・プロダクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの見直し、教育環境整備、CS 追求、実学教育の充実、入学者確保対策、魅力ある講師陣の確保、入学数確保。 <p><ファッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科運営対策、コンペティション対策、資格対策、社会福祉プロジェクト、地域連携、就職対策、別科・専科模索。 | <p>キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内定率は順調に推移○/グローバルアップセミナー開催○/ビクネーム内定○/就職活動時期変更対応○/保護者説明会開催○/就職ワーク強化○。 <p><入試広報室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標入学数未達成/情報の早期告知○/オープンキャンパス廃止○/AO 内容変更○/指定校推薦内容変更○/授業料免除方法再検討○/ガイダンス種まき強化○。 <p><校務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・納付方法の提案等丁寧な保護者対応○/学生支援機構の奨学生への細やかな指導○/教務ソフトの汎用性検討×/役割分担再構築○/急患等のマニュアルづくり○/学生に寄り添う窓口業務構築○/高校との教育交流拡充をはかる○/授業評価実施による学生満足度の向上○/地域大学等との交流○/「新芽奨学金」希望者への厳正な審査。 <p>。<建築></p> <p>教育レベルの向上としては建築デザイン科・インテリアデザイン科の学科の明確な住み分けにより卒業制作をはじめ作品レベル向上を見ることができた。実学実習の充実として、校外実習を代表とする多くの実学に参加することができた。新中野に実際にできるカフェ。OB と共に行ったワイズレフトインテリゲンシ&施工。地元建設企業様と実際の敷地で住宅計画、産学協賛企業としてのスタイルが確立された。資格取得については建築士を中心に取得率をあげることができず抜本的な改革が必要。入学者数は昨年度と比較して減少となっている。通信教育については伸びが見られた。</p> <p>「実社会とのパイプ」を活かした独自の実学プログラムを実施し、一定の成果を得られた。就職状況に関しては100%を維持。建築士資格の合格率に関して個別の対応が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築デザイン科=建築士、建築技術者、インテリアデザイン科=インテリア、ショップ系専攻に応じたカリキュラム準備△/3社を代表に実学実習を通じて実社会とのパイプづくり○/建築士・インテリアデザイナー講座導入、技能検定検討△/以上の充実により入学者を確保×。 | <p><キャリアセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門求人開拓、大手企業開拓、就職塾拡充、e-ラーニング講座活用、学生 PR 動画制作、就職指導の事業化 <p><入試広報室></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web 誘導ツール強化、留学生対策、スタッフ強化、奨学金見直し、スタートダッシュ強化 <p><校務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生支援体制強化(奨学金、図書室、危機管理)、研修旅行再検討、自由選択再検討、教育交流拡充、さがまち再構築。「新芽奨学金」における学生のボランティア管理。 <p><建築></p> <p>OB 企業との連携強化に向けた、キャリアセンターとの連携。就職、資格取得に関しては数的成果と同時に内容の充実を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習レベル向上、資格取得率向上、通信教育を含めた現代教育環境、PC 室整備、工房室整備、部活動創設。 <p><ビジュアル></p> <p>教育改革としていくらか授業方式を変え、教育の効果向上や今の学生のライフスタイルにあったシステムを構築する必要がある。また、3DCG 教育に関して、近年日本でも多く使用されるようになったスカルプト系の導入も一つの課題としたい。</p> <p>募集活動に関しては組織全体で考えていかなければならない課題である。</p> <p>デュアルシステムの開拓と安定的運用も課題である。</p> <p><まんが・コミック></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリップスタジオ導入、MAC 室リニューアル、教室機材のリニューアル、作品集拡充、Web ページの開設。 <p><雑貨・プロダクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC 室整備、工房室整備。 <p><ファッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容充実、発信力強化、ドロップアウト防止、物販の企画(ネットショップ・ユニバーサルブランド)。 |

| 平成28年度重点目標 | 達成状況 | 今後の課題 |
|--|--|--|
| <p>〈コミック学群〉 メジャーコンペでの受賞率の向上／専門就職口の拡大／作品集発行／出張移動編集部、アシスタント斡旋の拡大／次年に導入する、クリップスタジオの授業準備</p> <p>〈通信教育室〉 ・集客の仕組みづくり、教育内容充実、出口を見据えた通信教育</p> <p>〈法人総務〉 ・事業計画の遂行、施設改善・危機管理対策の推進</p> <p>〈法人企画〉 ・事業構造の抜本的見直し、予算制度の見直し、教育改革・渉外改革・経営改革、組織の大改革及びスリム化、人事の見直し、職員教育・育成・意識改革、デジタル事業、後援会設置、同窓会拡充、寄付金確保</p> | <p>〈ビジュアル〉 イラストレーション科のカリキュラム調整、募集活動の見直しにより前年度よりかなり募集の回復が見られた。 3年制の2学科に関しては募集が相変わらず伸び悩んでいるが、教育効果は完全に安定し効果が見られる。 実学に関しても3学科ともムラなく取り組んでいる。 ・1年次合同授業導入(基礎クリエイティブ共通課程)を核とした新カリキュラム○／実学実習による認知度アップ○／学校サイトアクセスアップ策△／VMD 技法利用△／就職個別指導早期化△／学生マッチング対策△／ハイレベル企業内定対策○／有名企業や地域企業との連携○。</p> <p>〈まんが・コミック〉 受賞率は現時点で63.6％／就職口は専門領域に合わせて拡大中／作品集は、OB 作品を含めて4種合計7種類発行／アシスタント達成率100％／新ソフト導入準備計画は年内に終了。随時入れ替え行う。</p> <p>〈雑貨・プロダクト〉 ・個別指導体制強化○／3Dプリンター産学協働検討×／有名企業インターシップ 対策○／必須・選択・合同等を踏まえたプログラム再構築△／工房室の環境整備△／授業外指導・学生フォローアップ 強化△／校外実学の充実△／対高校資料作成△／体験実習の研究△。</p> <p>〈ファッション〉 ・カリッジショップ 企画○／まちコ企画○／細やかな面談対応等のクラス運営○／実習における製作アイテム検討○／ネット販売企画○／新規コンペの開拓△／資格取得対策構築△／エバーサルアイテムの販売企画△／地域イベント参加による広報○／キャリアアドバイザー等就職指導計画見直し○。</p> | <p>〈コミック学群〉 ・eラーニング授業などへの取り組み</p> <p>〈通信教育室〉 ・学生募集体制・戦略構築、学生支援体制整備、質の向上。 強みの強化(スクリーニング 日程、コンテンツの充実、マルチデバイス化科目等履修生)、HP 強化、募集用資料の充実、施設設備整備、教員増強、学則変更による定員増を図る必要</p> <p>〈法人総務〉 ・収入増・経費節減、施設・設備の充実、危機管理対策、労働環境整備、マナー対策</p> <p>〈法人企画〉 ・事業構造提案、人材の質向上と意識改革、廃止・統合検討、通信強化、eラーニング コースの検討、組織スリム化、労務管理再構築、収益事業確立、後援会事務局創設、学園広報管理。</p> |

| 平成28年度重点目標 | 達成状況 | 今後の課題 |
|------------|---|-------|
| | <p>《通信教育室》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科定員満了のため広報・イベント活動構築○/HPを通じた集客○/企業営業による集客○/入学説明会問い合わせ対応等集客活動構築○/e-ラーニング教材の充実○/スクーリング・サポート体制の整備○/就職支援・転職支援の体制づくり△/ <p><法人総務></p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務体質・職場環境の改善△、収益の確保×、工房室の整備△、テニール事業計画△、1号館リニューアル△、学生生活環境整備と老朽化設備の改善修理△、法令点検△、報告事項の遂行と各設備の清掃・点検の充実△、大規模災害に対する備蓄品の確保及び対策△ <p><法人企画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益構造の強化:収益事業構造のバランス再構築△/収入に応じた段階的な予算執行△/有識者を交えた3大改革実施△/人員削減・課業洗い直し業務効率化△/適材適所・育成強化・研修会強化△/企業+学生コラボの収益事業検討△/後援会・同窓会連携強化○/寄付金募集強化△。 | |